広告

対談

多様化する世界の中で 平和・自由な精神を育む 広島大学

1952年愛媛県生まれ。1977年広島大学医学部卒業。2007年～2011年、広島大学病院長を務める。2015年広島大学長に就任。ひざ関節軟骨の3次元自家培養軟骨移植法を開発し、日本発の再生医療として初めて実用化につなげるなど、世界の最先端を走る整形外科医。2004年内閣府の日本学術会議会長賞を受賞。2015年紫綬褒章を受章。広島東洋カープのチームドクターとして30年間にわたり選手を支えている。

広島大学長 **越智光夫**
Mitsuo Ochi

×

国際ジャーナリスト **モーリー・ロバートソン**さん
Morley Robertson

日米双方の教育を体験し、海外の大学の姿や学問の有り様をよく知る国際ジャーナリスト、モーリー・ロバートソンさんをお招きして、広島での思い出やこれからの大学教育の在り方について、ご意見を伺いました。

1963年、アメリカ人の父親と日本人の母親のもと、ニューヨークで誕生。その後、父親がABCC（原爆傷害調査委員会）に転勤となり、幼稚園から高校までを広島で過ごす。1981年、東京大学とハーバード大学に同時合格。東京大学へ進学するものの、1学期で退学し、同年7月ハーバード大学に入学。1988年、同大学を卒業。現在はフジテレビ『ユアタイム』にニュースコンシェルジュとして出演。国際ジャーナリストからミュージシャンまで、幅広く活躍中。

広島で育まれた忍耐強さ

越智　実は私、モーリーさんが1984年に出版した著書『よくひとりぼっちだった』を読んで以来、ずっと気になる存在でした。子ども時代を広島で過ごされたそうですが、広島にはどのような印象をお持ちですか？

モーリー　アメリカでは自然豊かな場所で暮らしていたので、いろいろなものが詰まっている広島の街がとても珍しく感じました。僕が中学校に入学した1975年にカープがリーグ優勝して、広島中が熱く盛り上がったのをよく覚えています。

越智　カープといえば、ABCC（Atomic Bomb Casualty Commission／原爆傷害調査委員会）の医師として働いていたお父さまのもとに、カープの初優勝に貢献したホプキンス選手が、医学部進学を目指して推薦状をもらいに来られたそうですね。当時、私は広島大学医学部の5年生で、大学祭の講演をホプキンスさんに頼んで断られた思い出があります。その後、アメリカの学会で整形外科医になったホプキンスさんに偶然お会いして、2013年に広島で開催した日本整形外科学会にご招待したことがあるのです。

モーリー　僕の父とホプキンスさん、さらには越智学長が、そのようなご縁でつながっていたのですね。

越智　広島では、修道中学校・修道高等学校で学ばれたそうですが、当時の教育で印象に残っていることはありますか？

モーリー　広島の方はよくご存じだと思いますが、藩校の流れをくむ修道中学校・修道高等学校は、質実剛健な校風で有名です。特に当時は、スポ根マンガを地でいくような雰囲気があって、僕も1年かけてどっぷり染まりました。でもそんな校風だからこそ愛着も深く、今でも昨日のことのように、はっきりと思い出せます。

越智　ある意味、日本らしい精神的な教えが、今もモーリーさんを支えていますか？

モーリー　そうですね。「質実剛健」や「臥薪嘗胆」といった精神で、ネガティブな状態や苦難をバネにするところがあります。当時の仲間たちは非常に忍耐強くあり、やんちゃでもある。愛すべき仲間たちでしたね。

多様な視点と価値観を養う

越智　日本の学校教育を体験されて、その在り方についてはどのような考えをお持ちですか。詰め込み型の日本の教育は、効率よくいい成績は取れても、クリエイティビティーがないと言われますし、管理された組織の中堅クラスを担う人材養成には向いても、リーダーや創業者には向かないという指摘もあります。

モーリー　これまでの教育は、優秀な官僚の育成に向いていたといえるかもしれません。僕が中学生だった頃は、トップを率いていた方たちの中に戦前を体験した人たちがいて、彼らは敗戦で何もない状態を知っているからこそ、生きる力が強く豪快で、リスキーな決断を下すことができたと思うのです。そんな彼らに導かれるようにして、僕ら子どもたちは、彼らが求める優秀な官僚になるための教育を受けてきた気がします。

越智　強いリーダーがいたからこそ、自分が決定権を持つようになった時、自分一人で何かを決めて責任を取ることに、精神が慣れていないのですね。

モーリー　戦後の日本は、流れ作業やマニュファクチャーにひたすら効率化を求め、クオリティーコントロールに必死だったと思います。例えるなら、テンプレートに上手にモノを敷き詰めるような作業が、どこか教育にも投影されていたのではないでしょうか。

越智　現在、論理的に効率の良さのみの思考には限界があり、STEM（S＝科学、T＝技術、E＝工学、M＝数学）に加え、美的な要素が必要であると言われています。モーリーさんがハーバード大学に入学した時、アメリカと日本の間にはどのような違いがありましたか。今でも多様性にあふれた環境が、日本には不足していますか。

モーリー　アメリカでも戦後の1950年代くらいまでは、白人プロテスタントによる一律の価値観が世の中を支配していた時期がありました。それが60年代、70年代になると、異なる価値観も認めるべきだという風潮が生まれ、80年代から90年代の教育現場は多様性といったダイバーシティーが尊重されるようになりました。

越智　そのような多様な視点と価値観を養うために、日本でも小学生ぐらいからディベートをやってはどうかという意見もありますが、そういった試みも必要だと思いますか。

モーリー　ディベートのメリットは、自分自身が柔軟になれることです。相手が言っていることを疑うこともできますが、まず自分自身を疑うことが、ディベートの正しい在り方だと思います。

越智　もし、モーリーさんが日本の大学の学長になったとしたら、どのような教育に取り組みますか。

モーリー　学長ですか、それは責任重大ですね（笑）。では一日学長になったと想像して、まず文理を融合させてひと続きにして、理系の専攻には文系を、文系の専攻には理系を必須とします。いわゆるディストリビューションですね。学生たちに満遍なくいろいろな知識を吸収してほしいのです。

越智　教養科目の中ですが、すでにそうした取り組みは始めています。実は広島大学は、10年以内に世界トップ100に入るという目標を掲げ「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプA（トップ型）13大学の一つに選ばれ、さまざまな改革を行っています。広島大学のミッションとして、新しい平和学習の理念＝「持続可能な発展を導く科学」を確立して、対応性を育む自由で平和な国際社会の実現を掲げています。

モーリー　僕がハーバード大学で一番刺激を受けたのは、より良いゴールが設定できるならば、今ある価値観をひっくり返してもいいという考え方です。ハーバード大学では研究者一人一人が大変な情熱を持って、学生と水平目線で真剣に対峙していました。

越智　情熱を持って水平目線というのは素晴らしい。私たちも、その姿勢には大いに学ぶところがあります。ところで、昨年5月に、オバマ氏がアメリカ大統領として初めて広島を訪問しました。モーリーさんは、ジャーナリストとして、どのような思いであの瞬間を迎えられたのですか。

モーリー　父親はアメリカ人、しかもABCCの研究者で、僕自身もアメリカ国籍でした。子どもの頃はそれが壁になりそうなのですが、被爆者の子どもや孫である同級生、あるいはご自身が被爆したという先生も、アメリカ人である僕を温かく受け入れてくれました。しかしアメリカに帰国して核兵器の悲惨さを訴えても、多くのアメリカ人はピンときていなかったのです。自分の思いが通じないという無力感にさいなまれたこともありました。そんな中、オバマ氏が広島に来て、「これは人類にとってありえないことだ」と宣言してくれたのは、僕の中では本当に大きな出来事でした。

越智　オバマ氏の来広は、歴史における大きな一歩でしたね。広島大学は、被爆地に開学した大学として「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」の育成に取り組んでいますが、私も彼のスピーチを聞きながらその思いを新たにしました。東日本大震災と福島原発事故の際に、広島大学は、緊急被ばく医療チームや放射線の専門家ら延べ300人を派遣し、現地の人々に寄り添いました。悲しい歴史を乗り越えた広島大学だからこそできる社会貢献で、世界平和に貢献する広島の存在感をもっと示していかねばならないと実感しています。

多文化に触れ、本物に出会う

越智　お父さまがアメリカ人でお母さまが日本人ということは、どちらからも拒絶される部分があったのでしょうか。それで、「ひとりぼっちだった」という言葉を本のタイトルに使われたのですか。

モーリー　あのタイトルには「どちらにも縛られない」という意味も込めていました。寂しい印象を受けますが、寂しさは「自由」も伴っているのです。その解放感を読む人に伝えたいと思いました。子どもの頃はどちらかに属したいと思っていましたが、多文化の中に身を置いて初めて、ひとりぼっちであることは、世界で自由に生きていくための前提だと気付きました。

越智　広島大学には1500人の留学生がいて、キャンパスに多文化を内包しています。より以上に、実際に世界へ出て行くことにより、得られるものがあると考えますので、短期間のものを含めると年間約800人以上の学生を海外へ積極的に送り出しています。

モーリー　世界を見ることは重要です。日常というレールから少し逸脱できる経験の機会をもっと提供できたらいいですね。二度の大きな戦争を経た欧米では、多様なものがぶつかり合う中でさまざまな理想主義が出てきて、一つの思想に偏るということがあまりありません。多様性という前提があれば、その中でより高い理想を思い描くことができると、私は信じています。

越智　最後に若者へメッセージをいただけますか。

モーリー　本物と言われる人たちに出会うと、それまで見えていなかったガラスの天井が吹き飛ぶぐらい、すごい世界があります。それと同時に自分の描いていた夢が、案外小さなものだったということに気付きます。これからの若い人たちには、ぜひ「本物」を探し出してほしいですね。がんばってください。

スーパーグローバル大学創成支援事業
タイプA（トップ型）

国立
北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、**広島大学**＊、九州大学
私立
慶應義塾大学、早稲田大学

＊中四国では広島大学が唯一

来春 2018年4月新設（設置計画申請中）
広大に新たな 2つの未来が誕生

ビッグデータと頭脳で世界を創る。 情報科学部

境界を超える。世界を翔ける。 総合科学部 国際共創学科

広島大学 オープンキャンパス 8月17日（木）/18日（金）
東千田キャンパスは8月18日（金）のみ

■東広島キャンパス / 東広島市鏡山 1-3-2　■霞キャンパス / 広島市南区霞 1-2-3
■東千田キャンパス / 広島市中区東千田町 1-1-89

オープンキャンパスに関する問い合わせ先
広島大学入学センター
TEL：082-424-4656・6704・6172　FAX：082-424-6180　E-mail：nyusi-group@office.hiroshima-u.ac.jp

HIROSHIMA UNIVERSITY

●建学の精神　自由で平和な一つの大学
●基本理念　平和を希求する精神　新たなる知の創造　豊かな人間性を培う教育　地域社会・国際社会との共存　絶えざる自己変革

■学部
□総合科学部
総合科学科
□文学部
人文学科
□教育学部
第一類（学校教育系）
第二類（科学文化教育系）
第三類（言語文化教育系）
第四類（生涯活動教育系）
第五類（人間形成基礎系）
□法学部
法学科
□経済学部
経済学科
□理学部
数学科
物理科学科
化学科
生物科学科
地球惑星システム学科
□医学部
医学科
保健学科
□歯学部
歯学科
口腔健康科学科
□薬学部
薬学科
薬科学科
□工学部
第一類（機械システム工学系）
第二類（電気・電子・システム・情報系）
第三類（化学・バイオ・プロセス系）
第四類（建設・環境系）
□生物生産学部
生物生産学科

■大学院
総合科学研究科
文学研究科
教育学研究科
社会科学研究科
理学研究科
先端物質科学研究科
医歯薬保健学研究科
工学研究科
生物圏科学研究科
国際協力研究科
法務研究科（法科大学院）
■専攻科
特別支援教育特別専攻科

■共同利用施設・共同研究拠点
原爆放射線医科学研究所
放射光科学研究センター
ナノデバイス・バイオ融合科学研究所
■病院
広島大学病院
■中国・四国地区国立大学共同利用施設
西条共同研修センター

卒業生の皆様へ　広島大学校友会（フェニックスクラブ）へご加入ください。
学生支援事業を行うとともに、校友間のコミュニケーションを促進し、広島大学に関係する全ての個人や団体からなる広島大学コミュニティーの育成と発展を図ることを目的としています。
校友会への問い合わせ　広島大学校友会事務局　TEL・FAX：(082) 424-6015　E-mail：sec@phoenix.hirodai.jp　Webサイト：http://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/